

## 大地に根を張り、 空に向かって花咲かせるように

嶋田 知詠子

「へえ〜ここでやってたの？わたしや五十年ここに住んでいるけどね。知らなかったわあ」  
「えー五十年ってすごいですよね〜どんな町だったんですかあ？」

御近所の方々と話しが弾む。クラブの玄関先：

私は、障害を持つ子供達の放課後倶楽部を運営している保護者です。石島商店街の西の端にあり、「たんぽぽクラブ」を設立して八年目を迎えました。現在、小中高校生合わせて三十名の子ども達が、放課後や長期休業中を過ごしています。

私の娘は重度知的障害をもつ自閉症で思春期まっさかりの中学三年生、小学校二年生からクラブでお世話になりながら、私自身もずっと運営に関わらせて頂いております。

平成十四年春、前身のクラブが突然の解散をし、残った親達で、「どんなに障害を抱え

ていても放課後を保障し、色々な経験をさせてあげたい。寄り添いながら根を張り、まっすぐ上に向かって花を咲かせるたんぽぽのごとく、地域に根付いた活動ができますように」との思いからみんなでクラブ名を決めました。

立ち上げた当初は、母親達が保育をして父親達が学校への送迎に行ったりと、たくさんの方々の協力を得て基盤作りを始めました。現在は職員・スタッフが日々の保育実践を行い、集団遊び・掃除・おやつ作り、夕食作り、プール活動・外出・キャンプ・お話しのお会・サッカーなど、さまざまな取り組みから、自立支援や社会性を養わせるために、一人ひとりに合わせた働きかけを行っております。江東区心身障害児通所訓練事業として、区から補助金を頂いておりますが、足りない部分は保護者らで補っております。バザーをしたり、夏祭りで餃子を販売したりと保護者会活動も活発に行われています。秋の区民まつりにフリーマーケットを出店するため、バザー品集めに悪戦苦闘していた私たちは、石島町会長さんに町内の掲示板にポスターのお願いをしに伺いました。下町の人情味あふれる会長さんは「回覧板で呼びかけな」とすぐに地域の皆様に、クラブ紹介とバザー品ご提供のチラシを回して下さいました。以来、ご近所の皆様がおもちゃを下さったり色々な品物を

届けにクラブに立ち寄ってくださいるようになりました。

江東区は、東雲や豊洲など臨海地区の開発がすすみ、毎月人口が増加している区です。人口の比率からも障害児は増え、平成十七年、「発達障害者支援法」の施行以降は、今まで法の谷間と言われていたLD（学習障害）・ADHD（注意欠陥・多動性障害）・高機能自閉症の子ども達が、法によって組み込まれる事で増加の一途をたどっています。

江東区には△通所訓練事業▽という大変有り難い制度があるお陰で、放課後クラブが8団体あり全体で約一八十名の子ども達がそれぞれのクラブで放課後を過ごしています。しかし障害者手帳を持っている六〇十八才未満の児童生徒は六百人以上にのぼりますので、どのクラブも満杯、何年も待機している子供達がいるのが現状です。

父子・母子家庭の支援、健常の兄弟達のケア、保護者の疾患など、障害児を抱える家族の問題はさまざままで深刻です。

放課後の支援のみならず、より一層支援の幅が広げられるようにと、平成二十年十一月にNPO法人を取得しました。今までの放課後事業の他に保護者が事故にあわれたり急病になってしまった時や、兄弟の子の行事・冠婚葬祭などに安心して保護者が出かけられる

ように△障害児者のための緊急一時保護事業▽の設置と△啓発・広報活動事業▽をすすめていく事で障害に理解ある社会作りに寄与する事を目的としました。

先日、チラシを見たからバザー品を取りに来て欲しいと、お電話を頂き、いつもの事ながら少しドキドキしながらインターホンを押すと素敵なおばあちゃんが私に一枚のセーターを差し出され「NPOとったのね。何か応援したくてね。何も差し上げるような物がなから気持ちよこめて編みましたのよ、お母さん達ががんばって」と声をかけられ、私は思わず涙があふれました。まったく知らない方々が応援してください。温かい言葉をかけてくださる。親達はみんな頑張るのがあたり前の中ですから、こういうふれあいは本当に勇気づけられますし、頭の下がる思いと感謝の気持ちで一杯になります。

我が子のためにと奮い立って、無我夢中であった八年間、たくさんの方々にくぐりあい、支えられてきました。同じ立場の母同士、泣いたり笑ったりしながらも、自分もたくさんさんのことを学ばせて頂いております。

我が家は六人家族、主人の両親と同居しています。息子や娘を育てる上で、おじいちゃんおばあちゃんがどれだけ有り難かったか：子供を授かって、つくづくと感じた事です。

娘の障害がわかった時に私を支えてくれたのはおばあちゃんでした。息子が寂しい思いをしないように、幼い頃はいつも一緒にいてくれました。息子も妹の障害をあるがままに受け止めて優しいお兄ちゃんに成長してくれました。

今私にとっての癒しは、夫と息子や娘の話をする時です。良い事も悪い事もつらい事も悲しいことも、いつの間にか笑い話しに変わり：話しがつきる事はありません。

親である以上、これからもたくさんの試練が待っている事と思いますが、やはりなんといつても親なきあとの事を考えると、心が押しつぶされそうになります。

「将来グループホームを作ろうか」「まず成人期の余暇支援事業を立ち上げようか」と親達が集まると夢が広がります。

通所訓練施設は高校三年生までの施設なので、卒業後の長い人生をどう送るのか悩みはつきません。

十一月末に区の障害者福祉課指導係主催の勉強会に講師としてお招き頂きました。「放課後支援」として、立ち上げからの運営面、障害児をとりまく状況から娘の成長を支えて

くれた保育の実践をお伝えした上で、親としての思いをお話させて頂きました。

まず、色々な方に障害児者の存在を知って頂く事、障害を正しく理解して頂く事、支援の点と点をつなげて、やがて輪になることを願い、心をこめてお話しました。

不安を安心にかえる努力を、これからも保護者らで積み重ねながら、さまざまな活動を通して交流し、支援の幅が広がるように願ってやみません。

クラブでは毎日子供達の「ただいま」という元気な声が聞こえます。するとスタッフ達が一斉に「おかえりなさい」、「学校どうだった?」「今日は遅かったね」などと色々なやりとりから活動がスタートします。言葉のない子供達には、注意深く顔の表情を読んで手遊びや、歌など色々な方法で子供達の状態を確かめます。

とても純粹でストレートな子供達。もしかしたら大人達のほうが試されているのかなあと思うこともしばしば。

子供達の成長と笑顔が私達の原動力です。子供達の成長に負けないようにたんぽぽクラブもこれから益々成長し続けていきたいと思えます。